

【古代ギリシャの政治思想】

政治思想の創始者は、
古代ギリシャ末期に活躍した
ソクラテス、プラトン、アリストテレスらであると考えられている。
※深い理解は思想に譲り、政治学では概要のみを押える。

ソクラテス (469 頃～399 B.C.)

↓彼は

人々に『無知の知』を悟らせるため、
問答による対話を重視したため、
著作は残していない。

↓また

最後は『若者を墮落させた罪』により処刑された。

↓但し

彼の思想は後継者によって伝えられており、
その後継者の1人がプラトンである。

↓その著書として

『ソクラテスの弁明』がある。

(※処刑される際のソクラテスの弁明を描いたもの)

プラトン (427～347 B.C.)

↓彼は

感覚的世界 (現実世界) と
イデア界 (永遠不変の真理) を分けて考えた。

↓そして

イデアの中でも頂点が善のイデアとされ、
『政治の目標である善のイデアを認識できる者』を哲人王と呼び、
『知恵にすぐれた哲人王が政治を行わなければならない』という
哲人政治を唱えた。

↓また、

アカデメイアを創立し、研究活動・後進の指導に当たった。

【地上】○

プラトンは、現象の背後にはイデアが存在しており、政治哲学者が善のイデアに基づいて行うことが最も望ましいという哲人政治を唱えた。

【絶対主義時代の思想】

中世ヨーロッパは、
地方貴族による群雄割拠の時代である
封建社会であった。

↓しかし、
『カトリック教会の権威失墜』や
『貴族勢力の衰退』などにより封建社会は崩壊し、

↓そうした中、
国王の権力基盤が強化され、
中央集権国家が形成されていった。

↓この時代を
絶対主義時代 (16~18世紀) という。
(→その後市民革命を経て近代国家に移行する。)

↓そして、
この絶対主義時代の政治思想家として、
マキャヴェリとボダンが重要である。

N・マキャヴェリ (1469~1527)

↓彼は、

『祖国イタリアの政治的分裂による混乱』を目の当たりにし、
国家の安定には、
強力な指導力をもつ君主 (×ローマ教会) が必要であると考えた。

↓そして、
『君主論』の中で、
支配者に求められるものを

- ・ フォルトゥーナ (人間の力を超えたもの=運命)
- ・ ヴィルトゥ (人間の有能さ・意志力)

とする。

※君主は自己の力量によって運命を味方につけよ。
そうすれば国家の統治はうまくゆくだろう！

↓さらに、
君主に必要な要素として、

- ①国民を操作し得る『キツネの知恵』 (※道徳的に優れているように装う)
- ②国民を畏服させる『ライオンの見せかけ』とする。

【国ⅡH21】○

政治的リーダーに求められる資質に関して、プラトンは、政治の目標である「善のアイデア」を認識し、政治の技能として「高貴な嘘」を駆使できる哲人王が政治的リーダーになるべきだとし、N. マキャヴェリは、国民を十分に操作し得る「狐の知恵」と国民を畏服させ得る「ライオンの見せかけ」とを兼ね備えた君主が国家の政治に当たる必要性を説いた。

【国ⅡH19】×

N. マキャヴェリは、祖国であるイタリアの政治的分裂による混乱に直面した経験から、国家を安定させるには君主が強力な指導力を発揮することが必要であるとした。その一方で、イタリア統一の求心力をローマ教会に求め、君主といえども教会の権威には無条件に服することが必要であるとした。

【東京都H16】×

ボダンボダンは、君主には、道徳的に優れているように装うことと、愛されるよりも怖れられることが必要であるとし、「狐の狡知と獅子の力」をもつ君主を理想とした。

※マキャベリマキャベリの主張である。

【東京都】×

マキャヴェリは、ヴィルトゥ（力）によってフォルトゥーナ（運命）をまったく意のままに操ることができるような強力な君主像を抱いていた。

※彼の考えは、『力で運命を操る』のではなく、
あくまでも『力で運命を味方につける』イメージである。